

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
大学・エコシステム推進型
拠点都市環境整備型

完了報告書

「京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション」

2022年5月31日

【総括責任者】

所属： 京都大学

役職： 理事(研究・評価担当)・副学長

氏名： 時任 宣博

【プログラム代表者】

所属： 京都大学

役職： 産官学連携本部・本部長

氏名： 室田 浩司

プラットフォーム名	京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション
総括責任者 (所属・役職・氏名)	京都大学 理事(研究・評価担当)・副学長 時任 宣博
プログラム代表者 (所属・役職・氏名)	京都大学 産官学連携本部・本部長 室田 浩司
共同機関責任者 (所属・役職・氏名)	大阪大学 統括理事・副学長、共創機構 副機構長 金田 安史 神戸大学 理事・副学長 小田 啓二 大阪府立大学(現在 大阪公立大学) 学長・副理事長 辰巳砂 昌弘 大阪市立大学(現在 大阪公立大学) 学長 荒川 哲男 大阪工業大学 研究支援・社会連携センター センター長 杉浦 淳 関西大学 副学長・研究推進部長・社会連携部長・環境都市工学部教授 山本 秀樹 近畿大学 理工学総合研究所 教授/副学長/所長 藤原 尚 立命館大学 学長 仲谷 善雄 兵庫県立大学 学長兼副理事長 太田 勲 関西学院大学 副学長・研究推進社会連携機構長 長峯 純一 甲南大学 副学長・教授 村嶋 貴之 公益財団法人 大阪産業局 専務理事 角谷 禎和 一般財団法人 京都知恵産業創造の森 理事 小山 幸司郎
プログラム共同代表者 (所属・役職・氏名)	大阪大学 共創機構 機構長補佐 秦 茂則 神戸大学 産官学連携本部・教授 熊野 正樹 大阪府立大学(現在 大阪公立大学) 工学研究科 電子・数物系専攻電子物理工学分野・教授 藤村 紀文 大阪市立大学 スマート・ライフサイエンスラボ ラボ長／学長特別補佐 斯波 将次 大阪工業大学 研究支援・社会連携センター シニアURA 北垣 和彦 関西大学 化学生命工学部 教授・イノベーション創生センター長 石川 正司 近畿大学 アカデミックシアター事務室 主任 寺本 大修 立命館大学 副学長・産学官連携戦略本部長 徳田 昭雄 兵庫県立大学 理事兼副学長、産学連携・研究推進機構長 山崎 徹 関西学院大学 社会連携コーディネーター・国際学部教授 木本 圭一 甲南大学 教授 甲元 一也 公益財団法人 大阪産業局 野崎 麻衣 一般財団法人 京都知恵産業創造の森 スタートアップ推進部 部長 湯川 卓宏
活動実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日

I. 活動目的

京阪神におけるエコシステム拠点都市のビジョンの実現に向けて、大学が中心となって貢献するために、本プラットフォーム「京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(以下、「KSAC」)」を発足させた。KSACでは、大学、産業界、自治体等が密に連携をしながら、大学発スタートアップが連続的に創出され、起業に関わる多様な人材が活躍する、世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成を推進する。KSACの目標としては、2025年度末には2社のユニコーンを含む、90社以上の大学発スタートアップの創出を掲げる。

II. 活動の概要

関西圏の研究シーズをスタートアップの創出へとつなげるために、GAPファンドの運営、起業家教育や起業支援人材の育成、試作機器を中心とした起業環境の整備、ネットワーキングを目的としたシンポジウム開催等の活動を行っ

た。起業活動支援プログラムでは優れたシーズを発掘し、研究開発課題の進捗管理やビジネスモデルの構築などのハンズオン支援を行った。また、起業家教育や起業支援人材の育成プログラムを実施し、京阪神における起業環境の整備を進め、学生・研究者の起業に向けた活動を後押しできる体制づくりを推進した。また、キックオフイベント等を開催し、参画機関の連携や投資家などの外部の人材を呼び込むことを目指した。

Ⅲ. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム拠点都市として目指すビジョンに対する貢献

本事業実施に際して発足したプラットフォーム「京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)」は、13の大学を中心とする39機関からなるプラットフォームとして発足したが、令和4年3月31日の時点では、15の大学を中心とする41機関からなるプラットフォームへ成長した。

また、定期的に顔を合わせ、共同プログラムを実施するプラットフォーム「KSAC」が形成されたことで、大学、地域、組織の壁を越えてノウハウや支援メニューの共有・活用が可能となり、スタートアップ・エコシステム拠点都市として、関係機関とのネットワーク形成が強固なものになり始めたと考えている。

さらに、産官学金の各界からの参画機関の特長や強みも見えてきており、KSAC、および拠点都市内での中心的な役割を担う大学もでてきている。今後もKSACの活動を通じて、多様性に富む京阪神のスタートアップ・エコシステム拠点都市の有機的、創造的な連携に貢献することが期待できる。

2. 起業活動支援プログラムの運営

2-1. 構築した枠組みの成果

京都大学、大阪大学が官民イノベーションプログラムを通じて蓄積したGAPファンド運用に関する知見・ノウハウを参画する大学に横展開するという計画に従い、8参画大学にてGAPファンドを運用し、26件の採択課題をKSACの体制下で支援を行い、Demo Dayにて多くの視聴者を集めることができた。

具体的には、令和3年度に実施したGAPファンドプログラムでは55件の申請があり、学内シーズが多く存在していることが明らかとなった。各案件には専任支援人材が配置され、専任支援人材は綿密に代表研究者と相談を重ね、研究開発の推進と事業化プランの作成・ブラッシュアップに努めた。これらの内容は、全ての案件について報告書が月報として作成され、専任支援人材の間で共有された。専任支援人材にとってみれば、研究開発視点と事業化視点の両面から、具体的に支援すべき内容をこの月報から学ぶことができ、専任支援人材にとって重要である経験値の飛躍的向上に繋がった。

他方で、一人の専任支援人材が多様な案件に対して適切な支援や助言等を与えることは、限界のあることも明らかであり、専任支援人材に対する相談窓口の必要性も再確認された。従って、プラットフォームに参画する金融界や地方自治体などからの人材を活用できる相談窓口の構築が、目指す一つの方向である。Demo Dayでは、570名の登録者があり、プラットフォーム全体での関与・支援の体制構築ができた。また、Demo Day後にVC等からの問合せは10件あったことから、今後、更なるプロモーション等の必要性も認識された。

2-2. 研究開発課題の実績

・応募課題数、採択課題数

単位: 件

応募数	一次審査通過数	二次審査通過数	採択数
55	39	30	26

・知的財産権(出願数、登録数)

出願件数 : 国内10件、 海外1件 、登録件数 : 国内0件、 海外0件

・採択した研究開発課題の今後の事業開発の展開

単位: 件

A. STARTプロジェクト推進型2022年度起業実証支援に応募済み、もしくは2023年度以降起業実証支援に応募予定	15
B-1. 自力で起業した、もしくは起業の目途が立っている	2
B-2. 自力で起業に向けた活動を行っている、もしくは今後行う予定	3
C. 起業実証支援以外の他の事業化支援のプログラムへの応募済み、もしくは応募予定	2
D. 企業等への技術移転や共同研究に向けた活動を行っている、もしくは今後行う予定	4

3.起業家育成プログラムを運営する指導・支援人材の育成等

3-1. 構築した枠組みの成果

指導・支援人材を育成するためにKSAC育成プログラムを開発した。教育志向人材6名と支援志向人材11名合わせて17名の人材がKSAC育成プログラムを修了した。修了生の職業は大学教員(研究者)、大学URA、大学事務職員、自治体職員、VCなど多様であった。また、KSAC育成プログラムのほとんどはオンラインで実施せざるをえなかったが、修了生同士のつながりが生まれ、情報を共有し、互助を行う、SlackやFacebookのコミュニティが形成された。また、修了生のほとんどが将来KSACのメンターとして活動することを希望している。

KSACのウェブ上のプラットフォームとしてDOON! (<https://doon-web.jp/>)を構築し、2022年4月1日に公開した。ここでは、KSAC内での起業家教育の浸透を加速させるため、KSAC参画機関所属者の登録機能、各大学が提供する他大学所属者が参加できるプログラムやイベントの情報共有、メンター登録機能などが実装されている。すでに会員登録およびコース登録を開始したほか、KSAC育成プログラム修了者数名を含むメンターの登録がなされている。

KSAC内のピッチコンテストとしてKANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2022 (KSPGP)をオンラインで開催した。KSPGPは京阪神地域で2017年より開催されていたが、KSACのイベントとすることにより参画機関が前年度より2校増加し、京阪神地域における代表的なピッチコンテストの一つとして成熟期を迎えている。

3-2. 指導・支援人材の育成人数計画と実績

計画: 18人、 実績: 17人

4.起業環境の整備における構築した枠組みの成果

京都大学、大阪大学、神戸大学、大阪工業大学、大阪産業局の試作機器環境や配信機器の充実をはかるため、それぞれの地域の環境状況を考慮しながら機器等の整備を進め、設置大学にとどまらず、メンバーシップ制などの仕組みづくりを行った。試作機器環境の充実については、全ての地区で予定していた機器の整備は完了した。また、他大学へのオープン化については、他大学の学生への安全性の配慮や入退室の管理等で規程の整理が必要であることがわかり、年度内のオープン化は困難となったが、R4年度5～6月には、各地区の拠点でオープン化の目途がついている。

機器等のハード面、および人材交流のソフト面の両面を併せ持つ、持続可能なシステムを構築することを目指しており、単なる試作機器の設置場ではなく、アントレプレナーシップ教育の一環として取り組む学生を対象とした設備や、ディーテック系の大学発スタートアップ創出をより一層進めるための環境整備、また、多様な人材が集い、自由なアイデアを出し合いながら、情報発信をすることのできる場を整えることができた。

また、上記5つの起業環境整備拠点との連携や、プラットフォームの参画機関がプロトタイプの実成や量産の外注等を行うことを念頭に、京阪神地域のFab施設や製造企業のリストの実成を行った。現在、27のFab施設と132の製造企業をリストアップすることができた。

5.プラットフォーム内外のエコシステムの形成における構築した枠組み(全体像)、連携等の仕組み

プラットフォーム内に、「プラットフォーム推進会議」を設置し、本事業の取り組みの進捗管理や全体運営、京阪神におけるスタートアップ・エコシステムのコンソーシアムとの連絡・調整等を行うこととし、継続的な連携体制を構築した。「プラットフォーム推進会議」の下に、「起業活動支援評価委員会(GAPファンド運営委員会)」、「KANSAI起業家教育コンソーシアム協議会」を設立し、GAPファンドの運営と起業家教育プログラムの機動的な活動を可能とする体制を構築した。さらに、「プラットフォーム推進会議」内に「相談窓口連絡会」、「環境整備連絡会」、「幹事自治体連絡会」を設置することで、起業相談、試作機器、自治体との連絡に関して細やかな対応を可能とし、参加機関の意思疎通をより円滑にする体制へと発展させた。各委員会や連絡会はそれぞれが定期的に会議を開催しており、その進捗はすべての参加機関が出席する「プラットフォーム推進会議」で報告し、円滑な意思疎通と情報共有をはかってきた。6回開催された「プラットフォーム推進会議」では進捗報告のほか、イベントの計画や申請書・ヒヤリングへの対応、外部機関との連携についても活発な議論を行った。